



## 通商代表部できもの体験交流

千葉 麻里

2021年4月15日(木)午後2時から品川の通商代表部ホールできもの体験交流が行われました。毎年春に実施される行事ですが、昨年はコロナ禍の影響でできませんでした。今年はパブレンコ主席の奥様からの依頼で、44名(女性20名、男性9名、女児10名、男児5名)という大勢の方のご希望がありました。

例年通り、広いホールに敷き詰められた敷布の上に、予め郵送した振袖とみんなで持ち寄った様々な着物を置き、希望者を待ちます。着付けは同僚で東京都連盟の着物の先生方(辻田直美、林由美子、内藤佳子)とお弟子さん(鬼澤真里)と私との計6名。普段から仕事場でも一緒にベテランなので、どんなきものでも安心して任せられるメンバーです。

今年は男性も多く、背の高い方は少し袴が足りなかったかもしれません。振袖は長めなので自由がききますが、袴はやはり特大サイズを探さなければなりません。女の子はピンクが好みで、他の子が脱ぐまで待っているという場面もありました。男の子は侍の姿がお気に入りです。どこからかおもちゃの刀を持ってきて、腰に差し、その雄姿を撮ってもらっていました。最後に来た男の子は、見慣れないものに泣き出してしまいました。子どもの場合、難しいのは手早く着せること、きつくないように、それでいて走り回っても落ちてこ



ないようにすることです。

いつもの年と違うところは、外での撮影だけでなく、ホール内に撮影所を設置していたことです。撮影係に回る人もおり、また、家族全員できものを着て記念撮影をしていました。日本での良い思い出の一つになればうれしいです。お手伝いに生け花の山岸先生も補正用のタオルを持って駆けつけてくださいました。

皆さん、仕事の合間をぬって来られるので、いつ、どんな方に着せるのかその場にならないとわかりません。いつの間にか、用意した7枚の振袖がみんななかったりしていました。

5時を回っていましたが、最後に通商代表部の方々手作りケーキやクッキーで茶話会をしてくださりました。皆さんが本当に喜んで、いつも心のこもった歓迎をしてくださるので、先生方もやりがいを感じて楽しみに来ています。パブレンコさんの小さい娘さん、ナージャちゃんの手作りバナナケーキもとてもおいしく、うちでよくお手伝いしているのがわかりました。

紅茶と蜂蜜のきれいな小瓶のお土産をいただいて、送る方も送られる方も満面の笑みで、その日の交流を終えました。(副会長)

### ~イルクーツク便り(12)~

## 留学生活7年を迎えて・8

阿部 耕大

こんにちは、イルクーツク国立大学修士課程2年の阿部耕大です。5月になり長くて厳しいシベリアの冬からは解放され、雪も跡形もなく溶けたイルクーツクですが天気は安定せず、雨が降ったかと思えば晴天になったりと体調管理が難しい時期です。とはいえ夜の8時過ぎまで明るいので夏の到来までもう少しのようです。

4月の頭で大学院修士課程最後の授業を終え、期末試験もなんとか合格。試験の成績によって奨学金の有無が決まることもあり個人的に一安心でした。残す所は卒業試験と修士論文執筆のみ!ということで現在は寮の部屋でパソコンのキーボードをカタカタ叩く日々。合間に動画見ちゃったりして執筆の進捗は遅々たるものですが…(笑)

修士論文の執筆過程では通常論文の成果を発表する場として大学主催の学会発表が毎年4月に開催されます。基本自由参加ですが、この学会の出席者の中には6月下旬に行われる修士論文発表会の審査員の方(主に大学内の先生)がいることもあり、参加しておくことで発表後に彼らから問われた疑問点や問題点を修正し、当日の論文発表を円滑に行えるという利点があります。ということで試験準備と学会発表が重なった4月中旬までは少し忙しかったです。

今年はコロナ禍ということもあり対面とオンラインの同時進行で、学会に中国、ベトナム、クロアチアからの学生も参加していて国際的でした。自分はもちろんオフラインでの参

加でしたが何より驚いたのがもはやコロナなんて存在しないかのような3密状態の教室。現在では半分以上の人が室内や公共交通機関でマスクをしていない日常が当たり前となりつつあります。ロシア製のワクチンが予想以上の効果を出しているのかもしれませんが、若い人の中では接種する予定が無いと公言する人も多く、変異株が世界中で蔓延しているし、地続きのモンゴルでは再びコロナの感染拡大が止まらない(情報元:報ステ)らしいのでイルクーツクも対岸の火事ではいられないと思うのですが…。ちなみに自分は医療機関から外国人のワクチン接種はモスクワとは違ってイルクーツク州では認められていないとのことで断られました(泣)。

さて卒業まで残す所あと2か月もないですが、学業と並行してイルクーツク州で行っている日本文化普及のボランティア活動も5月末まで続きます。学校の低学年クラスで折り紙を教えています。ロシアの子ども達は学校教育の一環として折り紙に親しんできたらしく、なんだか誇らしい気持ちになりました。彼らにとっては単に通常授業をしなくていいのが嬉しいのかもしれませんが(笑)。頭の片隅に小さい時学校になんか日本人来たなっというのが記憶として残ってくれば十分です。あと個人的に子ども達(と通ってる美容師のお姉さん)から自分は大学院生だけど29歳だからもう若くないよーと言ったら、どんな海藻を食べるか教えて!と言われたのがツボでした。なんで海藻なんだろう?(笑)

● 広報部宛、ご投稿、ご意見をお待ちしております